



会長 佐藤 友彦 幹事 櫻井 武志

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

佐藤 友彦

皆さん、こんにちは。本日も例会に出席頂きましてありがとうございます。先週の会長挨拶で大会に参加する意義をお話しました。

その中の2つめに会員の意識高揚を図る事でクラブ活動が更に推進す

るとお伝えしたところ、私自身の意識に変化が起り、最近では寝ても覚めてもロータリーの事を考えています。基本的に大雑把な性格をしている私ですが気になることがある解を得ないとすまない一面もあります。そんな事から近々ではロータリーの奉仕の理想とは？奉仕の理念とは？具体的な事や定義なども考えています。また、当クラブではスマイルと言いますが他のクラブではニコニコと称しているクラブも多いです。英語か日本語の違いは承知していますがそもそもニコニコの歴史がどうなのか？どちらが推奨されているのか等々、多くの疑問も抱き様々なツールから情報を得ています。物事には何でなぜ？そのようになっているか等々、理由が存在します。その理由や経緯、根拠などを理解や把握をせずに発言する事は度合いにもよりますが、時として無責任で危険であるとも感じました。今後はしっかりと勉強をして知識と見識を兼ね備え発信出来るようになりたいと思います。

話は変わりますが、先程話しました奉仕の理念や理想という事を考えていた際に感じたことを少しお話しします。奉仕とは英訳するとServiceとなります。私たちの日常でサービスという、何かおまけをしてもらう事が直ぐに思いつきますが、本来は奉仕＝自己の利益を追求せず、他者や社会の為に無償で行なう行為や活動となります。また、奉仕を行う上で方向性や位置づけが曖昧ではなく、それは誰の為にを行うのか？何の為にを行うのか？明確にした上で行なうことが最も重要だと考えます。20年程前に受講した研修でこのような事を学びました。伊勢の修養団が行う伊勢研修というものがあります。日本人の心の故郷とされる伊勢の地に世代を超えた50人程の方々が集い4日間、寝食を共にし、日常にある当たり前の事を有難い事と思えるように心を養うことを目的に行われています。また、カリキュラムとしては滝に打たれたり川に浸かる水行や【みがく講習】として宿泊所の至る所を徹底的に掃除をするなど原始的な手法ですが人として大切な事を再度、確認でき

る内容となっています。その中の講義でこのような話を聴きました。【たらいの法則】というものです。たらいだと小さいのでプールに例えるとプールにボールが落ちてしまった時、そのボールを取る方法として自分の方に来るように水をかくと離れていくが向こう側に行くように水を送ると跳ね返り自分の方へ来るといった話です。要するに人や地域や社会の為にと行う行動はやがて自分に良い結果を齎し帰ってくるが自分の為にに行ったものは自分から離れて行ってしまふ。そんな話を思い出し奉仕の原点について考えるきっかけとなりましたので、皆様にもお伝えし、ご挨拶に代えさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

幹事報告 ガバナーより

1.12月のロータリーレート 1ドル147円

連絡事項 なし

スマイルボックス

松下孝君(伊勢原 RC)

初めてお伺いいたします。次年度に向けて準備をしております。ご支援よろしくお願いいたします。

伊藤伸之君 松下様ようこそ。

佐藤友彦君

宮川会員のご尽力のもと人材派遣業の認可を取得しました。

室伏学君

12月6日、湯河原温泉旅館協同組合の役員忘年会を開催しました。

出席報告

ゲスト 2名 ビジター 1名

会員 22名 欠席1名(免除者0名)

出席率 95.45%

前回の修正出席率 77.27%

前々回の修正出席率 90.91%

事前メイクアップ 0名

ゲスト 湯河原町消防本部 副署長指令担当 鈴木 淳様

同 第1部隊 情報指令室 露木 亮治様

ビジター 松下 孝君(伊勢原 RC)

皆様こんにちは、湯河原町消防本部情報指令室の露木と申します。今回は「家庭内に潜む危険」と題しまして卓話を行わせていただきます。

家庭内で発生する負傷事故は、階段や床等での転倒・転落事故から食事中の窒息、ガスの漏洩による中毒事故まで様々あります。ここでは国民生活センターが全国から収集した情報を元に、予防方法を説明していきます。

1. 高齢者の家庭内事故

高齢者と呼ばれるようになる 65 歳以上の方でも元気で活躍している人が沢山いますが、現実には身体機能は段々と低下しており、思わぬ怪我を負ったりします。特に家庭内での事故が多くなっており、高齢の場合怪我をすると重い症状になりやすく治療にも時間がかかります。生活の質(QOL)を確保するためにも事故予防が大切です。ここでは主な事故類型「転倒転落」「溺死」「窒息」についての防止策を紹介します。

・階段や廊下等の転倒防止

転倒防止にはまず「段差」を無くす事がポイントです。具体的には玄関等段差が大きい所には式台を置く、手すりや照明を設置する、敷居等は色分けする、滑り止めワックスを活用する、カーペットや絨毯は部屋全体に敷く、電気コードや小物等の収納場所に注意する、等で対応します。

・浴室での溺死の防止

溺死防止のポイントは「転倒予防」と「温度差」です。転倒予防については、石鹸や小物等に気をつけ、手すりを設置することです。元々滑りやすくなっていますから、浴室マットは排水口を除く全体に敷くことも大切です。一方温度差については、ヒートショック対応のため脱衣場も含めて温度差を無くすこと(一番風呂は特に注意)、シャワーを活用すること、給湯温度に注意することです。

・窒息の防止

食事の際は、お茶や水を飲んで喉をしめらせてから少しずつ、ゆっくり良く噛んで食べることが大切です。特に餅等粘りが強い食品は小さく切ることが窒息の予防となります。

2. 暖房器具での事故

特に冬場になって気をつけたいのが、暖房器具での事故です。主には「低温熱傷(低温火傷)」「中毒」があります。

低温熱傷とは低温熱源による熱傷です。長時間の低温熱源の直接接触により受傷します(44℃の場合、約6~10時間で受傷)。要因としては熟睡や体が不自由であること、知覚麻痺、泥酔、一酸化炭素中毒、糖尿病による循環不良等の状態で、湯たんぽやホットカーペットに長時間接触することで発生します。防止策としては湯たんぽに直接足を触れないこと、寝ている間に触れてしまうこともあるため、できれば事前に布団を温め、就寝時は布団から出した方がよいでしょう。また低温火傷の場合、見た目は大したことがなさそうに見えても、皮膚の深い部位が損傷している事があります。やけどや皮膚の変色、痛み等に気がついたら直ぐに医師に診てもらいましょう。

もうひとつのパターン「中毒」、まず一酸化炭素中毒ですが、湯河原管内にある都市ガスやLPGには通常一酸化炭素は含まれていません。しかし不完全燃焼が起きると燃焼物質の差に関係なく一酸化炭素が発生しますので、注意が必要です。昔の日本家屋ではすき間がありました、今のマンションなどは気密性が高いため、「まさか」と思うような状況でも事故が起こります。また顔の火照り感や頭痛といった段階では、ガスにさらされていると気づかないケースが多いことも厄介です。一酸化炭素中毒の防止には「こまめな換気」「暖房器具の保守点検」「閉鎖空間での燃焼時に気をつける」が有効です。続いてガス漏れによる中毒も怖いものです。ガス漏れへの対処としては「元栓を閉める」「窓を開けて換気する」「換気扇等の電気製品のスイッチは入れない(コンセントも抜かない)」「火気厳禁を徹底」「通報する」となります。

3. 消火器破裂事故

続いて消火器破裂に関する事故をご紹介します。消火器の耐用年数は8年程で、老朽化すると本体の腐食が進み破裂する可能性があります。消火器は使用期限を確認すること、保管場所についても、風雨に曝される場所や湿気が多い場所は避けることが大切です。

4. 主な火災の出火原因とその対策

さらに主な火災の出火原因について考えます。毎年出火原因の上位は「放火」で、最近は無差別なものも増加しているとされます。当然憎むべきは放火犯ですが、私達の生活においても「放火されない環境」をつくる事が大切です。具体的には「家周囲に物を置かない」「物置、車庫等は施錠する」「防犯灯の設置」「郵便受けに新聞チラシを貯めない」「車のシートなどは防災製品を使用する」等です。

続いて目立つのは「天ぷら油火災」です。食用油は約350℃で10分以内に発火するため、油を使用中はその場から離れないことが重要です。またガス台周囲の整理整頓や魚焼きグリルの油を残さないこと、消火器の準備も大切です。一方で「水を掛けないこと」「鍋を移動しないこと」「座布団や毛布を掛けないこと」を徹底しましょう。天ぷら油の消火に際しては、強化液消火器が適しています。

さらに「煙草」「トラッキング現象(長期間さしたままの伝記コンセントのすき間に埃が溜まり、埃が湿気を帯びて小さな火傳が繰り返し発生、付属するプラスチック部品が炭化し、本来通電しない部分に電気が流れ発火に至る)」「(折り畳むなどの不適切な使用や劣化による)電気コード、電気あんか」「(引き戸に挟まるなどで破損し、ガスが漏れた)スプレー缶」なども火災の原因となります。

5. 住宅用火災警報器を設置しましょう(おわりに)

火災の早期発見のために、住宅用火災警報器の設置が大切です。火災警報器はすべての部屋、階段に設置することが重要です。

火災や事故への予防は、ひとつひとつは当たり前のことのようにもみえますが、すべてが大切なことです。これからも事故予防に努めながら、素敵に毎日を過ごしていきましょう。

ご清聴ありがとうございました。